

# 岩手アドラー心理学研究会

自助グループ：多祥もりおか

「しあわせな子」を育てるのではなく

どんな境遇に置かれても

「しあわせになれる子」を育てたい。

(皇后陛下のおことばから)



岩手アドラー心理学研究会は、岩手でアドラー心理学を学ぶことを目的に活動している自助グループです。子育てや教育の現場で直面するさまざまな問題の解決方法を、アドラー心理学の考え方をもとに参加者みんなでお話し合いながら、ゆっくり学んでいく会です。

専門家はいません。みんな、普通のお父さん、お母さんや、学校の先生ばかりです。

現在、毎月1回定例会を行っています。定例会は、アドラー心理学にもとづく育児や教育の方法を学びたい方であれば、どなたでも参加可能です。定例会では、アドラー心理学にもとづく育児学習コース『パセージ』のテキストをもとに、どうすれば子どもを勇気づけることができるのか、参加するメンバーさん達が出して下さる事例（困りごとのお話）をもとにみんなで学んでいきます。

**開催日時：**毎月 第2土曜日の13:30~16:30

ただし、変更することもありますので、参加をご希望の方は、あらかじめ下記問い合わせ先までご連絡をお願い致します。

また、『パセージ』開催期間中は、定例会はお休みとなります。

**会場：**アイーナ 岩手県盛岡市盛岡駅西通1-7-1（JR盛岡駅から徒歩4分）

**参加費：**300円

**問い合わせ：**電話 090-2024-6766(といさわ) / メール [ena-san@nifty.com](mailto:ena-san@nifty.com) (北村)

【岩手アドラー心理学研究会とは？】普通の「お母さん」の樋沢と、普通の「学校の先生」の北村が、2人で運営している自助グループです。アドラー心理学の育児と教育の現場での援助力にすっかりハマリ、仲間と一緒にもっと深くアドラー心理学を学びたかったので、2014年にグループを立ちあげました。2人共仕事をしておりますので、活動はどうしても週末になります。平日に勉強会をしてほしい、という声を時々頂くのですが現状ではいかんともしがたく、平日の勉強会を開催してくれるお仲間が増えないかしら・・・と願っている今日このごろです。

# Q & A

## アドラー心理学って、どんな心理学なのですか？

アドラーは、20世紀の初めごろ、オーストリアのウィーンの町で、フロイトやユングと共同で研究して、臨床心理学という学問を打ち立てました。フロイトやユングが心の深層に興味を持ったのに対して、アドラーは人と人との関係に関心を持ち、人間関係はどうしてもつれるか、どうすればいい人間関係が持てるかについて、多くの研究を残しました。

## 『パセージ』って、何ですか？

『パセージ』とは、アドラー心理学のグループ体験にもとづく育児学習コースです。そもそも、子育てとは、何を目標にして行うものなのだろう？子どもが内側から育つためには、親はどんな援助をすればいいのだろう？などなど、アドラー心理学の考え方とやりかたにもとづいて、8週間にわたりゆっくり丁寧にグループで子育ての方法を学んでいきます。受講希望者が6名以上集まると開催可能です。

## なぜ、わざわざ育児を学ばなくてはならないのですか？ 旧来の育児で、いいんじゃないですか？

日本の育児は、世界的に見ればとてもいい育児だったと思います。ヨーロッパの育児は体罰を中心としたものであったようですが、日本では「子宝」などと言って、子どもをとても大切に育てました。それは、とてもいいことです。でも、旧来の育児は、封建時代の社会へ子どもを旅立たせるための育児だったので、今の時代には不十分なんですね。

むかしは、親が住んだ土地に子どもも一生住んでいて、親の職業を継いで、親が付き合った人達とつきあって生きていきました。でも、今はそうではありませんね。多くの子どもは親から離れて、親とは違う土地で暮らしますし、ある子どもたちは外国で暮らすことだってあるかもしれません。当然、親がつきあったこともない種類の人々とつきあわなければなりません。また、親とは違う職業につくのがむしろ普通になりました。こうして、現代の子どもたちは、親がまったく知らない世界へ旅立っていくのです。

旧来の育児では、＜子育ての目標＞を意識しなくてもよかったのです。目先の対応だけで対処していても、子どもは自然に親と同じ暮らしの中へ入っていきましたから。しかし、現代ではそうはいきません。子どもが自立することと、社会に調和して生きることを、親が積極的に意識して援助しないといけない時代になったのです。

また、旧来の育児では、＜子育ての方法＞もあまり深刻に考えなくてもよかったのです。効果がなくても、一貫性を欠いていても、合理的な根拠をもたなくても、封建的な時代には「親の権威」でもって思うとおりに子どもを支配できたのです。子どももそれをあたりまえだと思っていましたから、親の言うことに素直に従うことが多かったでしょう。でも、今ではそうはいかないのです。子どもは親と対等だと感じています。ですから、親の方も、対等の仲間として、合理的で筋が通った育児をしないと、子どもに背かれてしまうのです。

(『パセージ』テキスト1-R 「なぜ旧来の育児ではだめなのか」 より)